

【はじめに】

「ぷちまる」は独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所で育成された三倍体キンカンで、種が少なく食べやすいのが特徴である。徳島県内でも海陽町等で栽培の取り組みがされているが、従来のキンカン品種「ニンポウ」に比べると着果性が悪く、生産性が劣る。そこで、着果率の向上を図るため、環状剥皮処理およびジベレリンの散布について検討した。



図1 ぷちまる



図2 ニンポウキンカン

【試験方法】

試験1

「ぷちまる」および対照品種として「ニンポウキンカン」を供試した。環状剥皮処理は直径1～1.5cmの側枝に約2mm幅で全周処理し、処理部の癒合促進のために接ぎ木テープを巻いた。処理時期は出蕾期（6月中旬）、開花始め（6月下旬）、開花終期（7月上旬）、無処理およびニンポウ無処理の5区を設けた。



図3 出蕾期



図4 開花始め



図5 満開期



図6 開花終期

試験2

「ぷちまる」の満開期にジベレリン300ppm散布、50ppm散布、無散布の3処理区を設けた。

【試験結果】

試験1

出蕾期から開花終期まで、全ての処理区で着果率向上効果が認められ、処理時期が早いほどその効果は高い傾向であった。特に出蕾期に環状剥皮することでニンポウキンカンと同程度以上の着果率を得ることができた（表1）。

表1 環状剥皮が着果率に及ぼす効果

処理区	着果率 (%)
出蕾期	26.5
開花始め	14.4
開花終期	14.0
無処理	0.6
無処理（ニンポウ）	14.5



図7 環状剥皮処理



図8 環状剥皮に使用した二枚重ね接木ナイフ

試験2

満開期にジベレリンを散布することで着果率向上効果が認められた。特に300ppm散布で顕著な効果が認められた（表2）。

表2 ジベレリン散布が着果率に及ぼす効果

処理区	着果率 (%)
300ppm	11.2
50ppm	2.1
無処理	0

【おわりに】

「ぷちまる」の着果率を高める方法として、出蕾期の環状剥皮処理や満開期のジベレリン300ppm散布が有効であることが分かった。

今後、現場でこれらの手法が利用され、収量増加による所得の向上が期待される。

（農産園芸研究課 果樹担当 津村 哲宏）